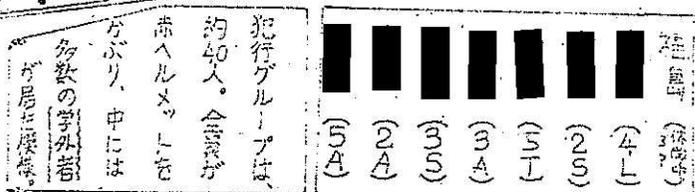


# これが10/24大量暴行拉致事件の真相だ

## 恐るべき暴力被害者22名 臨調粉碎斗争への敵対、自治委員会破壊を許すな



「ヤマト」10/24事件

**12:00~** 2コマ目の授業に着入していた暴力集団約20名(相当数の学外者を含むものと見られる)が講義終了と同時に、赤ヘル 覆面隊になって、自治委員会の準備に忙しかうとした学生に暴行を加えて外に押し出す。

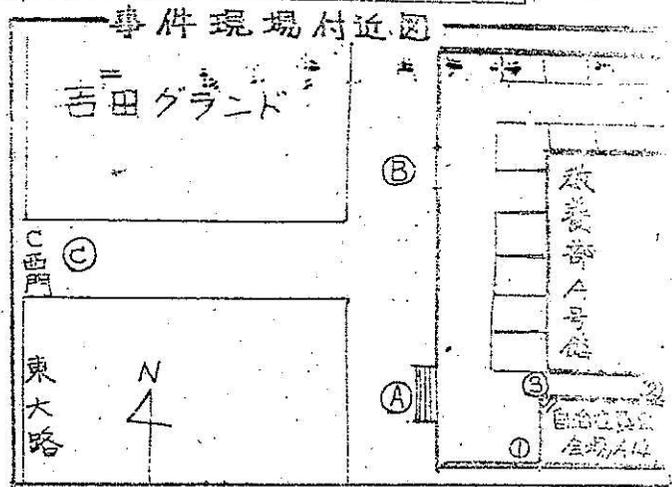
暴力集団は④地点の階路上に並んで入口を封鎖し、ハンドマイクで「自治委員会粉碎同盟会」名で別階のビラをまく。自治委員会に集まった学友とともに、C自衛隊代表が抗議すると、襲いかかってきて殴る蹴るの暴行を加える。

**12:40** 30分以上対峙するが暴力学生が封鎖を解かず、暴行をくり返すため、C自衛隊委員会はA141教室までの脱走は危険と判断して会場を、理学部BPI教室に変更することを決定し、ビラをまく。直後に暴力集団は一勢にC自衛隊委員会代表(2J)に襲いかかり、暴行を加えたあげく、①地点にひきずりこみ監禁する。④地点に集った学友が、何度も救出を試みるが、入口のスクラムを突破す失敗に終わる。そのため②地点に(2J)は③の地点をひきずりまわされる。

**13:05** 暴力集団が隊列を整えて、(2J)君を連れだのままA号館階下まで下り、⑤の入口から外に連れ出そうとする。③地点に待ちかまえていた学友が、暴力集団の行方をみまき、もみ合いの後(2J)君の救出に成功。スクラムを避けながら脱走する学友に向か、(暴力集団は暴徒にわたって襲いかかり、20名以上の学友が殴られる。この時(2J)君も(3S)君も殴られるなどの負傷者が続出。その数分おきに(2J)君が現場を歩いている足音も(3S)君も病院で治療を受けている。

被害総数は、治療室、メガネ、傷指代、指代など、205名程度と推定されている。暴力集団は、⑤地点まで暴行を加えながら退いた。以上が10/24事件の大型である。

教養部自治会常任委員会、自連協



《病院で治療を受けた被害者》(一部)

(2J)	(3J)
(3S)	(3S)
(3S)	(3S)
(5S)	(2J)

# 10・24暴力事件を断固糾弾し、暴力根絶、臨調反対の全学的闘いを呼びかける

1981年 10月 26日

教養部自治会常任委員会・自治会連絡協議会

京大の全ての学生、院生、教職員の皆さん

私たちは、24日午後、同学会を掩蔽する赤ヘル暴力集団により、白昼公然と引き起こされた、暴行・傷害・拉致事件を、満腔の怒りをもって告発するものである。

### //許されない犯罪行為//

去る10月24日、12:00から1:00にかけて、4L、3S、2S、5T、5A、2A、4Pら学部生を中心とする暴力集団は、教養部自治会の「自治委員会紛争」を叫び、数多くの学外者を引き入れ、学外者の指揮の下、自治委員会の開催を暴力的に妨害し、抗議する学友に対し、殴る、蹴る、服を破る等の暴行をはたらき、さらには教養部自治会常任委員会代表の2J君を拉致の上、暴行を加えるという暴挙に出たのです。この事件で22名の負傷者と眼鏡、服の破損、治療費など推定20万円に及ぶ大きな被害を出しています。このような暴行の限りを尽した暴力集団は、明確な社会的犯罪者集団であり、その行為は被害者の生命と身体を危険にさらし言論の自由を踏みしめるなど、基本的人権を乱暴にふみにじるものがあり、許されるものではありません。

### //暴露されたニセ「左翼」暴力集団の狙いと本質//

この事件は、多くの学生の前に赤ヘル暴力集団の暴行の真実をさらけ出すとともに、その狙いと本質を余すところなく明らかにしています。

第一に、この事件で、彼ら赤ヘル暴力集団が狙ったものは、教養部全学生の団結と、学生生活擁護など学生の切実な要求実現の闘いを破壊することにあります。

現在、政府自民党がすすめている臨調・ニセ行革は学費値上げをはじめとして、学生生活破壊、大学の反動的再編をたくむ軍拡推進、国民収奪の恐るべき計画であることが明らかにされてきています。これに対して、教養部から3クラスの決議、5サークル、有志等の決議があり、学費値上げ反対の署名も1400集まるなど、反対の声が大きく盛り上がる中で、10月24日の教養部自治委員会が開かれようとしていたのです。

こうした中、孤立を深め焦燥にかられた赤ヘル暴力集団

は、自治委員会を破壊することによって、教養部生が自らの要求をまとめ、その実現のための方針を決定することを妨害したのです。かからが要求実現の闘いへの敵対者であり、団結の破壊者であることは明白です。

第二に見ておかなければならないのは、彼らの攻撃の矛先が、教養部数名の学生を代表する組織、教養部自治会に向けられていることです。彼らは教養部生の正当な自治活動に介入し、妨害・破壊を行っているのです。しかも、それを全学学生自治会同学会の名を借称して行っており、二重三重の自治を破壊する暴挙と名をねばりません。このような暴力を開放ししておくならば、彼らの暴行をエスカレートさせ、大学を無法地帯と化すことになりかねません。これは大学自治の破壊に導くものであり、この事件は被害者と教養部学生にとどまらず、京大の全ての構成員の共通の問題であることを強く訴えるものです。事実、六、七十年代に、彼ら暴力集団が暴力と自治会破壊・大学施設の占拠、封鎖などの活動と繰り返した時、政府・文部省が「大学に自治権なし」として大学への介入を強めようとしたことは、歴史の教訓です。

### //暴力一掃、大学自治擁護、要求実現のため我々は闘う//

教養部自治会常任委員会と自治会連絡協議会は、赤ヘル暴力集団の暴行を絶対に許さず、京大から暴力を一掃し、基本的人権と大学自治を守るために断乎として闘うものです。私たちは、被害者の闘いを全学的に支援していくとともに、暴力集団に対し、事件の犯人カギル・フの全氏名を明らかにし、被害者に謝罪と損害賠償を行い、社会的に処罰を受けることを強く要求します。京大の全学から、彼らの暴行を糾弾し、彼らを包囲する世論を巻き起こそうとはありませぬ。同時に、教養部自治委員会を成功させ、11・12全国統一行動にはストライキをふくむ大運動を展開し、臨調・ニセ行革、紛争、学費値上げ阻止、学生生活擁護、核兵器根絶などの運動を前進させることこそ、彼らへの最大の解答です。私たちは全学生の団結の下、さらに前進するものです。